

令和3年度後期教育研究員所外研修  
「組合関連施設見学」

11月24日(水)に南部広域行政組合の3施設の見学や、環境に配慮したゴミ処理や水の有効活用に関する講話を通して、ゴミの減量化や分別排出等の重要性を学びました。

【研究員の声】

東部環境美化センター

- 家庭ごみ等の処理工程や、施設の統合の経緯について理解することができた。家庭から出るごみを少しでも減らせるように生活の中で気をつけていきたい。
- 「ゴミの減量は、買う時に必要か不必要かをしっかり見極める」との話しが心に残った。環境を守るために、多くの方々が関わっていることを、子供たちに伝え、買い物でもゴミの量を減らすことを意識する授業を行いたい。
- 高温による可燃ゴミの焼却など多くの工夫のおかげで、私達は安心・安全に暮らせていることを再確認できた。



一般廃棄物最終処分場「美らグリーン南城」

- 環境保全を一番に考えて、「施設の外には何一つ出さない」という仕組みがとても素晴らしいと感じた。また、不燃ごみ、資源ごみを手作業で細かく分別し、リサイクルに繋げる職員の働きに感謝の気持ちでいっぱいになった。
- 有害な物質を除去し再利用されるまでには、蓄積した年数と同年数またはそれ以上かかると聞き、ごみ処理の大変さを知る機会となった。
- ゴミ処理には時間がかかることを再確認できた。私達にできることは何だろうかを考え、未来に課題を先送りすることなく、まずはゴミを増やさないために必要以上は買わないなどの取り組みを進めたい。



し尿処理施設「清澄苑」

- し尿処理施設があることや仕組みについて知らない子供たちも多いと思うので、学校で学習と関連させながら伝えていき、機会があれば、施設見学なども計画してみたい。
- 農業用水で使用する際に、使用者にも配慮してオゾンで脱色していると聞き、環境だけでなく、使用する農家の方々にも配慮していることに驚いた。私たちの生活に欠かせない施設があることを児童に伝え、「循環型社会」に様々な方々が関わっていることに気づくような授業を目指したい。
- 化学薬品の利用やオゾンを発生させて活用したりするなど、理科の学習内容における生物や化学の分野が役立っていることが分かった。さらには、脱水汚泥の肥料化や処理水の農業用水としての再利用など、循環型処理施設の大切さを考えさせられた。



12月の主な予定

2	木	指導講師検討会③(～12/7) 指導講師連絡会②(～12/7) しののめ教室スタッフ会議
3	金	しののめ教室「沖適連体験活動交流会」参加
6	月	しののめ教室「県立図書館見学」 協力員研究授業[英語](西崎中)
7	火	幼児教育自主講座(特別支援教育①) Zoom
8	水	琉舞クラブ④ ミーティング③
13	月	しののめ教室美術教室 原稿提出(所内検討会③) ミーティング④
14	火	室内検討会 幼児教育自主講座(特別支援教育②) Zoom
15	水	所内検討会③「検証授業」 しののめ教室調理実習
16	木	園内研修支援(糸満南こども園) 琉舞クラブ⑤ しののめ教室スタッフ会議
17	金	琉舞クラブ⑥・琉舞発表会 ヒアリング⑥「板書計画」
20	月	しののめ教室美術教室
21	火	しののめ教室大清掃
22	水	しののめ教室大清掃 ミーティング⑤
23	木	所長講話Ⅱ しののめ教室調理実習
24	金	しののめ教室クリスマス会
28	火	仕事納め

令和3年度後期教育研究員所外研修

「沖縄県高・大・地域連携福祉研究会」

11月18日に行われた、沖縄県教育委員会・沖縄県立系満青少年の家主催の「沖縄県高・大・地域連携福祉研究会」の講演会に参加しました。3名の講師による福祉社会の現状と課題、特色ある実践を拝聴し、今後の福祉のあり方について考えました。



文部科学省初等中等教育局 視学官 矢幅清司氏による講演の様子

【研究員の声】

- 小学校においてもキャリア教育の視点から、いろいろな職業があること、子供たちが福祉について知るきっかけを与えることが必要だと感じた。
- これからの未来を支えていく子供たちを育てるためには、小・中学校段階の体験を価値あるものにすべきだと感じた。現場に戻ったら、福祉を支える「心」を育めるような実践に努めたい。